

◆出演者 50音順★印育成対象者

- 天野 鎮雄 劇座
- 磯貝 紬 俳優館ユース部
- 伊藤 順一
- 稲吉 直人 俳優館
- いのこ 福代
- 打田 茂
- 桑原 博之
- 後藤 好子 俳優館
- 佐藤 融 狂言和泉流
- 志村 友美★俳優館
- ジル 豆田 てんぶくプロ

- 徐 梨恵★俳優館
- 末吉 康治 劇座
- 鈴来 かえり★俳優館
- 谷口 真規★俳優館
- 寺本 久美子
- なかむらさりあ ミュージカル劇風スパーク
- 西川 長秀 日本舞踊西川流
- 二瓶 翔輔
- 久川 徳明 劇団翔航群
- 日比野 正裕
- 藤原 孝喜 演劇組織KIMYO
- 堀 優子 劇座
- 丸林 みい★俳優館
- 水原 あきほ 俳優館
- 宮谷 達也 演劇組織KIMYO
- みやちともこ 俳優館
- 森 裕紀子 俳優館
- 山下 大希 俳優館
- 特別出演 ◆佐藤 友彦 狂言和泉流
- 演奏 ◆Mabo 雅弥
- ◆四恩 朱

名古屋能楽堂

名古屋市中区三の丸一丁目自番号 電話〇五一一三一一〇〇八八

午後二時
午後六時三十分
開場は開演時間の30分前

二〇二六年十二月七日(水)・八日(木)・九日(金)・十日(土)・十一日(日)

出雲の阿国と女芸能集団
いづも
阿国の阿国
おくに
いざや傾かん

《出雲の阿国と女芸能集団》阿国歌舞伎の誕生とその革新性を描く
戦国の世を歴史を切り裂くように登場し女性史芸能史上画期的な役割を果たした

作 ◆ふじたあさや
演出 ◆木村 繁

音楽 ◆川崎 絵都夫
振付 ◆工藤 健道 (日本舞踊工藤流)
指導 ◆佐藤 友彦 (狂言和泉流)
◆衣斐 愛 (能楽シテ方宝生流)
美術・衣裳 ◆中矢 恵子

照明 ◆花植 厚美
音響 ◆加藤 久直
演出助手 ◆鏡味 富美子 / 宮部 晶子
舞台監督 ◆加藤 敦雄
舞台監督助手 ◆ほりみか
宣伝美術 ◆楚 勉
プロデューサー ◆森 釗
アシスタントプロデューサー ◆祖川 詩織

◆入場料金

指定席 (正面席) = 4,000円
自由席 / 日時指定 (正面席・中正面席・脇正面席)
一般 3,500円 学生 3,000円

チケット予約・問い合わせ

◆日本劇団協議会 TEL03-5909-4600 ◆俳優館 TEL052-203-8721

チケット販売所

- ◆俳優館 TEL052-203-8721 (平日10:00~18:00 / チケット郵送可)
- ◆チケットびあ (PコードNo.454-480) ◆ローソン全店 (LコードNo.42882)
- ◆CNプレイガイド TEL0570-08-9999 ファミリーマート全店 famiポート店頭
- ◆名古屋文化振興事業団チケットガイド (ナディアパーク8階) TEL052-249-9387 (平日9:00~17:00 / チケット郵送可。及び市内13文化小劇場 (瑞穂文化小劇場をのぞく) 芸術創造センター、青少年文化センター、名古屋能楽堂ほか名古屋文化振興事業団が管理する文化施設窓口 (土日祝日も営業))
- ◆愛知芸術文化センタープレイガイド TEL052-972-0430
- ◆名古屋演劇鑑賞会 TEL052-932-3739

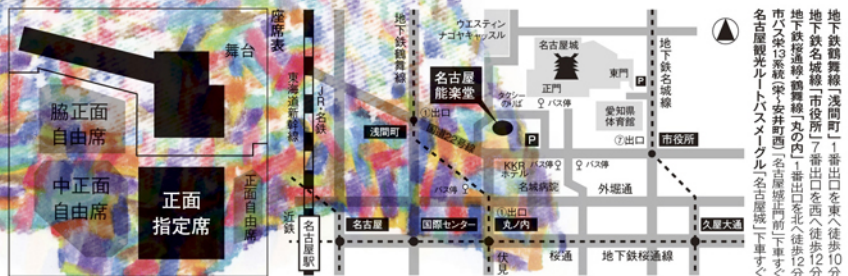
主催 ◆文化庁 / 公益社団法人日本劇団協議会

後援 ◆名古屋市 / 愛知県教育委員会

問合せ ◆日本劇団協議会 TEL03-5909-4600

◆俳優館 TEL052-203-8721 FAX052-203-8729

E-mail: ttm-mr@ss.iij4u.or.jp http://www.hi-you-can.com



地下鉄鶴舞線「浅間町」1番出口を東へ徒歩10分
地下鉄名城線「市役所」7番出口を西へ徒歩12分
地下鉄東山線「丸の内」1番出口を北へ徒歩12分
市バス19系統「栄」安井町西 (名古屋駅前) 下車すぐ
名古屋観光バス「バスステーション」名古屋駅前下車すぐ

阿国伝説の再構築を



◆ 作
ふじたあさや

「能楽堂で出雲の阿国を舞台化するというアイデアはどうでしょう？」

プロデューサーの森さんのこの言葉に、一も二もなく飛びついたのは、阿国には借りがあるといふ気がしていたからである。十三年前、阿国歌舞伎四百年の記念に、祇園歌舞練場で、京都太鼓センターの公演として、太鼓新歌舞伎「阿国・わらう」を構成・演出しているが、公演の性質上劇的な展開は十分に出来なかった。いつかの借りを返さないと阿国に申し訳ない——そう思い続けていたのである。というのも、今の私たちは、阿国から始まった何かの流れの中にあるという思いがずっとしていただからで、それが何であるかを、突き止めたい、確かめたいと、思い続けてきたのである。

その思いに、ある方向を与えてくれたのは、武蔵大学の小笠原恭子教授の論考（出雲のおくに 中公新書）である。小笠原氏は、従来見過ごされてきた史料を改めて探索することで、阿国を伝説から解放した。そこで見えてきたのは、庶民に愛されたばかりでなく、宮中など上流階級のおもてなしも受けてきた、阿国作品の流動性と多様性である。それがあつたから阿国は乱世から泰平の世へとつなぐ役割をはたすことができた。何でもありの歌舞伎の流動性の源は、阿国だった。

家康は阿国を祝っていたかもしれない——という小笠原氏の推量は、私を刺激するものだった。いくつかの場面が見えてきて、それを軸に阿国伝説を再構築することにした。学者は資料に即してしかものが言えないが、その点、劇作家は気楽に嘘をつける。私も、何でもありで行こうとしている。

彼岸と此岸



◆ 演出
木村繁

名古屋能楽堂で「出雲の阿国—いざや傾かん—」を演出します。能舞台上で演出するのは初めてではないのですが、この作品は出演者も多く、彩りも多彩で、さて、どう捌こうかと頭を悩ましています。

日本の文化には、茶室へ入るには路地という飛び石のある通過空間があり、祭りの舞は本殿へ向かう前に庭や神楽殿という通過空間で舞われます。浄瑠璃の心中は、悲しい死の前に、なぜか美しく華やかな道行という通過儀礼が準備されています。相撲の長い仕切りも一瞬の勝負に向けての通過儀礼でしょう。

この国の芸能は彼岸と此岸、現実と夢、生と死、この2つの時空を「旅すること」に全エネルギーを費やしています。その最たるものが能舞台の橋掛かりでしょう。橋掛かりは本舞台上に斜めに接続しています。「斜め」の通過空間というのは稀有な発明で、世界の劇場建築を見ても他に例がありません。もちろん建築費も敷地面積もかかりません。正方形の舞台上に斜めの通路、百という目出度い数に一つ少ない九十九、茶碗の裏に傷つける割り高台もこの不完全の美学に基づいているのでしようが、満たされたパランスを嫌う日本人の好みのような気がしてなりません。

「出雲の阿国」ではこんなことを考えながら、橋掛かりを造って、彼岸から此方によみがえってくる激しいエネルギーを描いてみたいと思います。



50音順
★印有対象者



稲吉直人



いのこ福代



打田茂



桑原博之



後藤好子



佐藤融



志村友美



ジル豆田



徐梨恵



末吉康治



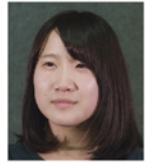
鈴木かえり



谷口真規



寺本久美子



なかむらさりあ



西川長秀



二瓶翔輔



久川徳明



日比野正裕



藤原孝喜



堀優子



丸林みい



水原あきほ



宮谷達也



みやちともこ



森裕紀子



山下大希



特別出演 ◆ 佐藤友彦



演奏 ◆ Mabo 雅弥



天野鎮雄



磯貝 純



伊藤順一



「日本の劇」戯曲賞2016

正賞/作品の上演(2017年度)
副賞/賞金10万円
【最終選考委員】
板垣恭一、上村聡史、内藤裕敏、
中屋敷法仁、宮田慶子

新進演劇人育成公演【俳優部門】

鳥
原作/アリストパネス
脚色・演出/清水友陽
2016.7.8[金]▶14[木]
シアターZOO

新進演劇人育成公演【俳優部門】

Suka-suka aja de!
作・演出/倉田淳
2016.7.15[金]▶25[月]
ウエストエンドスタジオ

新進芸術家海外研修の成果公演

フィルメーナ・マルトゥラーノ
作/エドゥアルド・デ・フィリッポ
翻訳/二宮大輔 演出/高橋正徳
2016.8.2[火]▶7[日]
青年座劇場

新進演劇人育成公演【俳優部門】

ケンジの森のバス停
作・演出/志村智雄
2016.9.14[水]▶18[日]
劇・小劇場

新進演劇人育成公演【演出家部門】

アヒルと鴨のコインロッカー
原作/伊坂幸太郎 脚本・演出/ほさかよう
2016.9.14[水]▶19[月]
ザ・ポケット

新進演劇人育成公演【俳優部門】

出雲の阿国〜いざや傾かん〜
作/ふじたあさや 演出/木村繁
2016.12.7[水]▶11[日]
名古屋能楽堂

新進演劇人育成公演【俳優部門】

メカニズム作戦
作/宮本研 構成・演出/流山児祥
2017.1.13[金]▶29[日]
Space早稲田

「日本の劇」戯曲賞2015公演

檸檬の島
作/西史夏 演出/中屋敷法仁
2017.3.10[金]▶15[水]
恵比寿・エコー劇場

新進演劇人集中講座
2016 StoneCrabs
シェイクスピア探究ワークショップ
7.26[火]▶30[土]・8.2[火]▶6[土]

エデュケーションワークショップ2016
8.6[土]▶8[月]・
9[火]▶11[木]・12[金]▶14[日]

日本の近代・現代劇へのアプローチ
西川信廣ワークショップ
8.9[火]▶21[日]

声優ワークショップ夏期集中講座
8.19[金]▶21[日]・
23[火]▶24[水]・26[金]▶28[日]

鴻上演劇研究所ワークショップ
2016.12.3[土]・
2017.1.7[金]▶9[祝]・14[土]▶15[日]

